

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要／事業所記入】			
事業所番号	2374500607		
法人名	株式会社　ハルス		
事業所名	グループホームはるすのお家　尾張旭　2F（欄々）		
所在地	尾張旭市庄中町2丁目4番地8		
自己評価作成日	令和4年1月13日	評価結果市町村受理日	令和5年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2374500607-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	令和4年9月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人一人が気ままに過ごしていただけるよう、見守りつつ極力自由に行動していただいている。季節の行事等を工夫を凝らして行っている。
対応方法を改めて、次に起こりそうな状況や状態などの話し合いや事故に繋がらない気配りができている。
その人に合う形態を考え介助を行っている。自由に過ごしていただける空間作りをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(欄々)

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	介護理念、事業所理念、今年の目標を事務所内に掲示し、毎月のミーティング、カンファレンス時にスタッフ間で共有(唱和)している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩、買い物へ出かけており、挨拶をしている。挨拶をしてもらえる。小学校区の行事やイベントには積極的に参加している。 ご家族や、近所の方から野菜や果物を頂く。 町内会に加入し、行事の案内をもらう。 ※コロナ禍のため活動自粛中		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	子供110番の家に登録 スクールガードの登録 地域の中で生活することで、暮らしぶりを日常的にみてもらえる。 ※コロナ禍のため活動自粛中		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を通じて、家族の面識が高まっている。 実地指導の報告など、市の担当者から行ってもらっている。 ※コロナ禍のため活動自粛中		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事故報告書の提出。運営についての疑問点などは随時確認している。 情報共有できる場や機会への積極的な参加をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月のミーティングで身体拘束委員会を開催して、身体拘束の有無、また拘束に繋がっていないか話し合いをしている。 勉強会は年に一度実施している。 必要に応じて、入居者が臥床してからこのまめな訪室を行い事故防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	適宜研修を受け、職員相互の注意喚起を行っている。 勉強会は年に一度実施している。 ケアに困った際は他の職員の意見を聴くなど虐待に繋がらないように心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護については年に一度の勉強会の実施をしている。活用している利用者がいるため対応した結果を職員にも必要分報告している。成年後見人制度を利用している利用者様がいることは周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時には家族の疑問等に相談に乗るようにしている。 上司がしっかりとご家族と話し合いをにて理解を得ていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族からの意見などは、上司に報告を行い次回の面会時などに返事をする。希望を伺うなどしている。 玄関に意見ボックスを設置しているが、近年使われることはなく、家族から直接意見を頂くことが多い。 日常的にご家族からの希望や意見は伺うことができています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	常日頃から意見や提案を言える環境にある。毎月のミーティング時に意見が言える場がある。一人一人の意見を取り入れて上司、フロア長に話をして決めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	向上心など職員同士が声を掛け合い、お互いを助け合いうようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ひとりひとり勉強会や研修に参加する機会があり、その後職員同士で共有する仕組みがある。先日も研修を受けました。 職員の一人が講師となってバット交換など実践して勉強している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナ禍のため他交流は活動自粛中		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時等、面談等を管理者が行い、家族や利用者が不安なことは出来るだけ解消できるように支援している。利用者さんのお話を傾聴し、かわりを多くしていくことで状況の把握、理解を深めていき、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族とも面談等を通じて不安なことを聞いてその後の支援につなげている。 ご家族の方からお話を伺う事により関係作りに努めている。 管理者により面談時に行われている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居したての方は、その環境になれていないことを理解し、不安を少しでも軽減できるように対応している。 必要な支援を見極め対応に努めている。 「その時」と「今後」を含めたケアを考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家事を利用者の方から学んだり、手伝って頂きながら関係を築いている。 介護による支援が職員の一方的な事にならないよう努めている。 偉そうな態度をとらず、何をしても平等を保っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族に出来る事や家族にしかできないこと等を手伝ってもらいながら支援をしている。 両者を支えるのも介護者の役割だと考え努力している。 来設時、面会時などに話を聞き支援に繋げている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者によっては面会が時々ある。 友人や家族等が面会に来られ外出等出かけることがある。 ※コロナ禍のため面会自粛中		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	席の配置など利用者同士の関係性を把握して行っている。 職員が利用者さん同士の間に入ることで関わりがスムーズに行えるよう努めている。 一人ではないことを感じてもらうに声をかけ「今」をその人にとっていいものになるよう心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後も相談や、その後の様子の連絡を受けることもある。 上司とは連絡が繋がっていると思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者に応じてその人に会った生活を理解し、ミーティングで話し合い対応に努めている。利用者さんと接する時間を多く持つことで把握できるよう努めている。 一人一人の意向を汲み取りそれぞれにあった対応に心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	会話の中やカルテ、家族の話を通じてその人に会ったサービス利用の把握に努めている。 利用者のことばや行動をミーティングで共有している。 生活歴や習慣を把握し、個々に合わせた対応に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	今できることを理解し、ミーティングで話し合い現状について把握している。 自分の目だけでなく朝夕の申し送り時等に他職員の見解も参考にしている。 トータル1日を通してのその人の状態など朝礼、夕礼でしっかり他職員に伝えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	今必要なこと、生活のやりがいを感じられるように家族、職員、本人からの意見を参考にして介護計画を作成している。 何を必要としているかを汲み取り意見交換している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画の見直しを三か月ごとに行い、気づきを職員から聞くことでミーティングで共有している。職員同士で気付いたこと等の意見交換ができています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ひとりひとりにあったその時に必要なことをできるだけ対応し支援している。 重要性などを考えてその人にあったニーズに合せた支援に繋げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	公園の花を見たり、花見に出かけたりしている。 コロナが落ちたら演奏会やバーベQなどでリフレッシュしていきたい。 ※コロナ禍のため活動自粛中		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期的にひとりひとりにあったかかりつけ医の往診を受け、関係を築いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	異変が起きた場合は直ちに報告し適切な受診や看護を受けられるように支援している。 毎週火曜に訪問看護の健康チェックを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には状況等を理解し、面会に出かけている。 入院先の医療機関と情報共有したり、退院カンファレンスに出席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居の段階で話すことがあり、その後も終末期の方針について話し合いをする機会がある。 ご家族と管理者がしっかりと話し合いを行い、それに沿った形で職員も行動している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故については話し合いやマニュアルを通じて備えができています。 事故がなぜ起こったのかその前後も考え発生ごとに検証している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時の避難訓練は実施している。 定期的に避難訓練を行い、避難方法や注意事項を話し合うことがある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	居室のものの配置など扉の開閉まで本人の好みや主張を大切にしている。 人生の先輩として尊敬をもって接している。 敬語ではあまり話ができおらず、出来る限り失礼の無いように話をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	小さな選択を日常的に働きかけている。 本人の意思が伝達できなかったりする場合 には本人の想いをくみ取って言葉がけしている。 本人からの表出しやすい問いかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	各入居者マイペースに過ごしている。 職員が自分勝手に決めないで、本人たちに併せて支援できるようにしている。 職員の都合になっていることも多いが、希望に沿った支援を行うように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2か月に1回は訪問美容を受け、毛染めをされる方もいる。 1～3日に1回の入浴をしている。 服装も気を付けている。 髭剃りや爪切りも敵行っており、汚れた服は更衣している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	買い物、献立を決めることなどから一緒に行うことで食事を意識した生活を支援している。 メニューや味付けなど変化に富む食事になるよう工夫している。 食事の盛り付けや片づけ等、一緒に行うことができるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	体重測定を2回／月実施。 水分摂取量の確認を行っている。 水分量が少ないと思うときはお茶を提供している。 飲みやすい飲料を購入している方もいる。 食欲が低下している場合には本人が食べられそうなものを購入し提供することもある。 摂取状態が悪い方には形態を工夫したり、補助剤を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアは、起床時、毎食後に行っている。 スポンジ歯ブラシなども使って適切な口腔ケアに努めている。 就寝前の義歯洗浄ができています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	本人の排せつパターンを把握して援助している。 時間を決めて誘導する人でも、状況に応じて早めにするなど対応をしている。本人にとって何が一番良いかを職員と、時に本人と話す。紙パンツの利用を希望される場合はしてもらい、清潔の保持にも努めている。 職員同士相談したり、ミーティングの場で意見を出しおむつの使用を減らすなど必要に応じた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取、野菜の多い献立をしているが便秘の方は多く、下剤を内服される方も非常に多い。 水分を多くとっていただいたり、運動をしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	職員のタイミングで声をかけているが、本人の気持ちや意向も尊重している。全員ではないがその人が嫌な思いをしないようにタイミングを計っている。 1回／二日の入浴をしている。 菖蒲湯、ゆず湯、入浴剤を使って楽しんでもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日常的に、横になったりソファでウトウトしたり。 夜間の不眠がない限りは自由に過ごしている。 日中の日光浴なども心がけている。 横になりたいと言われる方が見えれば居室で休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤師、医師ともに何かあった場合には相談をしている。 また、薬の変化は必ず職員に周知している。 処方箋を確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	歌を歌ったり、ご飯の支度をしながら話をしている。 歌、塗り絵、調理、外の仕事など。 何ができて何が好きか一人一人の役割りなどを見つけるために関わりを持つようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	喫茶店や買い物に出かけている。 「お出かけ」だけでなく、戸外の様子がわかるよう声をかけたり、「閉じこもっていない」雰囲気になるような関わりをしている。 ※コロナ禍のため外出自粛中		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理を個人でしている入居者がいない。 お小遣いを預かり、施設で支払いをすることが多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や馴染みの方からハガキが届いている方も見える。 手紙などを預かり本人にお渡しするととても喜ばれるので、お部屋に飾ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	施設全体、車いす2台が通れる広さになっている。 衛生的で匂いも感じない。 互いの関係性の中で、空間を共有し生活している。 ひとりにとっていいものが他の誰かにとっていいものでないことも多くあり、職員が介入しながら生活してもらっている。 大きな音を立てないように気を付けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	施設内にリビング、居室以外にも椅子が設置しており、それぞれが過ごしやすい場所で自由に過ごしている。 折々にくつろげる場所が用意されていて自由に使える。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が使いやすい物を使用し、本人の使い慣れたものがあればご家族に相談し、もってきてもらっている。 本人に必要なものは都度報告している。 本人が整理整頓できないものもある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人一人がやりたいと思う瞬間を損なうことがないように関わり支援している。		